

令和7年度

運営に関する計画

最終反省

(令和8年2月)

大阪市立東三国中学校

大阪市立東三国中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

学校の現状として、生徒の規範意識が高く、暴力行為等の問題行動も少ないことが挙げられる。いじめについても、アンケート等を通じて認知したものについてはその後の対応で100%解消できている。このように、生徒にとって安全で安心できる学校を維持することができているが、不登校生への対応は依然として本校の課題である。

学習面においては、全国学力・学習状況調査やチャレンジテスト等の結果からも、教員が授業力向上に取り組み、生徒が真面目に学習に取り組んでいる成果が見られる。しかし、学習に対する不安から登校しづらくなる生徒もあり、ICT機器の効果的な活用や個に応じた指導を進めながら、よりわかりやすい授業を心がけ、生徒の達成感や学習意欲を高めていけるようにしたい。

体力・運動能力面でも日頃の体育の授業の成果が表れている。今後も運動を楽しむ気持ちを育みながら、体力・運動能力の向上の取組を継続する。また、規則正しい生活リズムが崩れることから遅刻や欠席が増え、不登校に陥る生徒もあるため、学力や体力向上の基礎となる健康的な生活習慣の重要性について啓発を行う。

教職員の働き方改革については、引き続き工夫をしていきたい。生徒や教職員の地域行事への参加や地域ボランティアの方々による学校支援活動を進めるうえで、地域とのつながりを大切にしながら、今後の在り方についても検討していきたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。(基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現)
- 毎年度末の校内調査において、不登校の生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。(基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現)
- 毎年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を、毎年、増加させる。(基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現)
- 令和7年度の校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を77%以上にする。(基本的な方向2 豊かな心の育成)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和7年度の校内調査における「友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目について、最も肯定的に回答する生徒の割合を60%以上にする。

(基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上)

○令和7年度の大阪市英語力調査における、中学校卒業段階でのCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を60.5%以上にする。

(基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上)

○令和7年度の校内調査における「運動することが好きですか」の項目について、最も肯定的に回答する生徒の割合を60%以上にする。

(基本的な方向5 健やかな体の育成)

【学びを支える教育環境の充実】

○ICT機器の効果的な活用を進め、令和7年度末の校内調査における「学校での活動や家での生活の中で、学習者用端末を活用できますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。

(基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進)

○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を60%以上にする。

*基準2

ア.1年間の時間外勤務時間が720時間を超えない

イ.1か月の時間外勤務時間が45時間を超える月を1年間に6月までとする

ウ.1か月の時間外勤務時間が100時間を超えない

エ.連続する複数月(2か月、3か月、4か月、5か月、6か月)のそれぞれの期間について、時間外勤務時間の1か月当たりの平均が80時間を超えない

(基本的な方向7 人材の確保・育成としとやかな組織づくり)

○令和7年度末の校内調査において、生徒1人当たりの学校図書館年間貸出冊数を6冊以上にする(基本的な方向8 生涯学習の支援)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 今年度の全国学力・学習状況調査の「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。（基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現）

令和5年度	令和6年度	令和7年度
75.6%	82%	71.8%

- 年度末の校内調査において、不登校の生徒の割合を前年度より減少させる。（基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現）

令和5年度	令和6年度	令和7年度
10.0%	6.8%	8.8%

- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。（基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現）

令和5年度	令和6年度	令和7年度
37.5%	25%	17%

- 今年度の校内アンケートの「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を83%以上にする。（基本的な方向2 豊かな心の育成）

令和5年度	令和6年度	令和7年度
82%	82%	82%

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 校内アンケートにおける「友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目について、最も肯定的に回答する生徒の割合を60%以上にする。（基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上）

令和5年度	令和6年度	令和7年度
54%	55%	51%

○大阪市英語力調査における、中学校卒業段階でのCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を72%以上にする。

(基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上)

令和5年度	令和6年度	令和7年度
66.7%	70.7%	77.6%

○校内アンケートにおける「運動することが好きですか」の項目について、最も肯定的に回答する生徒の割合を60%以上にする。

(基本的な方向5 健やかな体の育成)

令和5年度	令和6年度	令和7年度
58%	56%	55%

【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日が、年間授業日の85%以上にする。

(基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進)

○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を60%以上にする。

(基本的な方向7 人材の確保・育成とよやかな組織づくり)

○今年度末の校内調査において、生徒1人当たりの学校図書館年間貸出冊数を6冊以上にする。(基本的な方向8 生涯学習の支援)

大阪市立東三国中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 今年度の全国学力・学習状況調査の「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。(基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現)

令和5年度	令和6年度	令和7年度
75.6%	82%	71.8%

- 年度末の校内調査において、不登校の生徒の割合を前年度より減少させる。(基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現)

令和5年度	令和6年度	令和7年度
10%	6.8%	8.8%

- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。(基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現)

令和5年度	令和6年度	令和7年度
37.5%	25%	17%

- 今年度の校内アンケートの「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を83%以上にする。(基本的な方向2 豊かな心の育成)

令和5年度	令和6年度	令和7年度
82%	82%	82%

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

取組内容①【1、安全・安心な教育環境の実現】

〔B〕

- ・いじめや不登校、問題行動等に対応する制度の活用

家庭やSC、こどもサポートネットのSSW、関係諸機関と連携しながら、段階的な生活指導基準の取組を進める。

指標 教育相談や懇談、アンケート等を通じて生徒の実態を掴む機会を月1回設定し、いじめや問題行動に対して早期発見、早期対応を目指す。

取組内容②【2、豊かな心の育成】

- ・ 道徳教育の推進 〔 B 〕
「読み物教材」の他、「問題解決的な学習」や「体験学習」などさまざまな方法による授業の構築を進める。
- ・ キャリア教育の充実 〔 B 〕
適切な職業観や勤労に対する意識を育成するための3年間を見通した指導計画を立て、取組を進める。
- ・ 人権を尊重する教育の推進 〔 B 〕
「反戦・平和教育」「男女共生学習」「国際理解学習」「共生社会の実現についての学習」を4つの柱として、各学年で指導を進める。
- ・ インクルーシブ教育の充実と推進 〔 B 〕
個々の生徒の状態を把握し、保護者や他の機関との連携を密にするとともに、日常的な情報交換により、教職員の共通理解を図る。

- 指標
- ・ 年間カリキュラムをもとに計画的に授業を進める。
 - ・ 1年生で職業セミナー、2年生で職業レディネステスト、3年生で高校出前授業、マナー講座を実施する。進路学習を1年生で2時間、2年生・3年生は5時間以上取り組む。3年生の進路希望調査を4回以上行い、それを受けて懇談および教育相談を進める。
 - ・ 各取組後に振り返りを行い、「自分の考えを持てたか」、「他人の意見を聞いて新しく気づいたことがあったか」、「自分の考えや生き方を考えたか」を確認し、取り組みの成果を確認する。
 - ・ 特別支援教育委員会、職員会議、学年会等の会議を通じて、教職員の共通理解を図る。保護者とは連絡ノートや支援学級通信を活用し、連携をとる。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ・ 月に1度「生活アンケート」「いじめアンケート」「教育相談」等を実施している。外部機関と連携することはできた。
- ・ 道徳教育の推進については、各学年の協力により授業時数の確保と、教科書を含めた「読み物教材」や「視覚教材」などを活用した授業を行うことができた。
- ・ 3年間を見通したキャリア教育の充実を目標に、新たな取り組みを積極的に導入した。1年生ではライフプラン作成・ハローワーク講話・進路学習。2年生では職業講話・高校の出前授業。3年生は進路希望調査を5回実施し、懇談につなげることで個に応じた進路指導を進めることができた。取り組みを通して「自己理解から進路選択へ」という流れを意識した3年間の枠組みを整備できたことが大きな成果である。
- ・ 各学年、平和教育・男女共生教育・国際理解教育についてさまざまな授業形式で順調に授業が進んでいる。
- ・ インクルーシブ教育の充実と推進について、小学校や療育施設等と連携を行っている。また、職員会議等を利用し教職員への生徒の情報の伝達を行っている。保護者とも連絡帳を活用しながら、必要に応じて電話連絡や懇談などを行っている。

次年度への改善点

- ・ 道徳教育について、次年度も引き続き授業時数を確保すること。また人権教育、総合的読解力の育成と関連させた展開をしていくことが必要だと考える。
- ・ 昨年度より不登校数は増加している現状がある。これまで以上に個別に対応をしていく必要がある。
- ・ 本年度実施した各取り組みについて、振り返りや成果の分析を行い、内容の精査と改善を図る必要がある。特に、各学年間の接続をさらに明確にし、学習内容の重なりや発展性を整理することで、より体系的で実効性の高いキャリア教育へと昇華させていきたい。

大阪市立東三国中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○校内アンケートにおける「友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目について、最も肯定的に回答する生徒の割合を60%以上にする。

(基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上)

令和5年度	令和6年度	令和7年度
54%	55%	51%

○大阪市英語力調査における、中学校卒業段階でのCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を72%以上にする。

(基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上)

令和5年度	令和6年度	令和7年度
66.7%	70.7%	77.6%

○校内アンケートにおける「運動することが好きですか」の項目について、最も肯定的に回答する生徒の割合を60%以上にする。

(基本的な方向5 健やかな体の育成)

令和5年度	令和6年度	令和7年度
58%	56%	55%

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

取組内容①【4、誰一人取り残さない学力の向上】

- ・個に応じた指導の充実 〔 B 〕
各学年の教科学習において、習熟度別少人数授業やサポーターの効果的な活用により、個に応じたきめ細やかな指導を実施する。
- ・理科教育の充実 〔 B 〕
「主体的・対話的で深い学びの実現」、「理科の見方・考え方」、「探求の過程」を考慮し、生徒の科学的に探究するために必要な資質・能力を育む授業を行う。
- ・英語教育の強化 〔 A 〕
生徒が興味関心を持つような授業を行うとともに、4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」の育成を進める。
- ・淀川区学力向上支援事業の活用 〔 B 〕
2年生を対象に漢字能力検定受検に向けて目標を持って学習に取り組むことで、学習意欲を高め、基礎学力向上の一助とする。

指標

- ・校内アンケートの「授業はわかりやすいですか」の項目について肯定的に回答する生徒の割合を75%以上にする。
- ・課題の把握、課題の探求、課題の解決を意識した「観察・実験」を実施する。また、観察・実験を各学年8回以上行う。
- ・3年生における大阪市英語力調査の結果、CEFR A1レベルの英語力を有する生徒の割合が72%以上になるように、文法演習を増やし定着を図り、多読教材を使用し、教科書以外の語彙も指導していく。
- ・漢字能力検定の合格率を70%以上にする。

取組内容②【5、健やかな体の育成】

- ・体力・運動能力向上のための取組の充実 〔 B 〕
体育の授業だけでなく、昼休みや学級活動、総合的な学習の時間に運動をする取組を推進する。
- ・健康的な生活習慣の定着に向けての取組 〔 B 〕
規則正しい生活習慣や望ましい食習慣を身につけることができるように、啓発活動を進める。

指標

- ・校内アンケートの「運動することが好きですか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を60%以上にする。
- ・校内アンケートの「朝食を食べている」の項目で肯定的な回答する全学年の生徒の割合を85%以上に、「毎日同じくらいの時間に寝たり起きたりして規則正しい生活ができている」の項目で肯定的な回答する全学年の生徒の割合を80%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ・校内アンケートにおける「授業はわかりやすいですか」の項目について、肯定的な回答は88%であり、指標はクリアできている。全国学力・学習状況調査やチャレンジテストにおいても大阪市・大阪府また、全国平均を上回ることができている。学力向上支援サポーター・特別支援サポーターの協力も大きな一助となっている。生徒も学校規律を守り、落ち着いた環境で学習することができている。
- ・理科教育の充実の項目として、「主体的・対話的で深い学びの実現」、「理科の見方・考え方」、「探求の過程」を意識した実験を8回以上という目標を達成することができている。
- ・3年生における大阪市英語力調査の結果、CEFR A1レベルの英語力を有する生徒の割合は過去3年間で目標より上回っている。今年度も4技法の向上を普段の授業から意識し、取り組むことができている。
- ・淀川区学力向上支援事業「漢字能力検定」は10/24（金）に実施。担当教員が取り組みに対し、授業で対策を講じていた。合格率は60%であり、目標には届かなかった。
- ・3学年ともに、総合的な学習の時間を活用し運動をする取り組みが実施できた。
- ・睡眠時間の確保や毎日の朝食摂取が習慣として身につくよう、また毎日の学校生活における健康管理を自主的に行うことができるよう、保健だよりや生徒保健委員会による啓発活動を引き続き行っていく。

次年度への改善点

- ・「運動することが好きですか」の項目について、目標値に達することができず、来年度に向けて取り組み内容を考え直す必要がある。
- ・各学年の教科学習において、教員の授業への入り込みやサポーターの効果的な活用により、個に応じたきめ細やかな指導をすることができた。次年度でもこの現状を継続するよう努めていく。
- ・引き続き英語力向上に向けた授業作りを行うとともに、大阪市英語力調査でCEFR A1レベルの英語力を有する生徒の割合を70%以上を目指す。
- ・来年度も淀川区役所の学力向上の取り組み「自己肯定感を育む（よど検）」での漢字検定を継続して受験する予定である。

大阪市立東三国中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日が、年間授業日の85%以上にする。</p> <p>(基本的な方向6 教育DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進)</p> <p>○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を60%以上にする。</p> <p>*基準2</p> <p>ア. 1年間の時間外勤務時間が720時間を超えない</p> <p>イ. 1か月の時間外勤務時間が45時間を超える月を1年間に6月までとする</p> <p>ウ. 1か月の時間外勤務時間が100時間を超えない</p> <p>エ. 連続する複数月(2か月、3か月、4か月、5か月、6か月)のそれぞれの期間について、時間外勤務時間の1か月当たりの平均が80時間を超えない</p> <p>(基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり)</p> <p>○今年度末の校内調査において、生徒1人当たりの学校図書館年間貸出冊数を6冊以上にする。(基本的な方向8 生涯学習の支援)</p>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	
取組内容①【6、教育DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】	〔 B 〕
<ul style="list-style-type: none"> 学習者用端末の効果的な活用 <p>毎日の学校および家庭での活動において、学習者端末のより効果的な活用を図る。</p>	
指標 校内アンケートにおける「学校での活動や家での生活の中で、学習者用端末を活用できますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を75%以上にする。	
取組内容②【7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】	〔 B 〕
<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革の推進 <p>学校閉庁日の設定など、教職員の働き方改革を進める。</p>	
指標 学校閉庁日を夏季休業期間中と冬季休業期間中と合わせて5日以上設定する。	
取組内容③【8、生涯学習の支援】	〔 B 〕
<ul style="list-style-type: none"> 読書活動の推進 <p>学校司書や地域ボランティア、生徒の図書委員会の活動と連携しながら、読書活動を活性化する。</p>	
指標 学校図書館の年間貸出冊数を1600冊以上にする。	

取組内容④【9、地域との連携】

〔B〕

- ・地域を大切にすることを意識の育成
ジュニアリーダー実行委員会を活用するとともに、地域行事への積極的な参加を全校集会で呼びかける。

指標 保護者アンケートにおける「学校は家庭・地域とのつながりを持っていますか」の項目について肯定的に回答する保護者の割合を75%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ・学習者用端末の効果的な活用については ICT 教育アシスタントと連携し、生徒の活用のみならず教える側の教員の活用方法など授業支援も行っている。校内アンケートにおける「学校での活動や家での生活の中で、学習者用端末を活用できますか」の項目については88%と昨年度よりも10ポイント高く、目標を達成している。生徒の学習者用端末の使用頻度は上がっているものの、「心の天気」の使用頻度は年間を通して低いため、活用を積極的に促していく。
- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合（1月まで）では46%であり、昨年度より4%は上がっている。項目（イ）だけ見たとき、54%となっている。学校閉庁日は夏季休業期間に8/12（火）～8/15（金）の4日間設定。冬季休業中は12/25（木）、26（金）、1/5（月）の3日間設定した。ゆとりの日は月1回で設定した。
- ・学校図書館の貸出冊数は現時点で1255冊であり、生徒一人あたりの貸し出し数は4.4冊と目標には達成しなかった。しかし図書委員会の生徒たちは、趣向を凝らした来館の啓発を行ってくれている。学校司書との連携や地域ボランティアの協力をいただきながら、次年度も今年度同様運営をしていく。
- ・ジュニアリーダーの活動【新東三国地域のクリーンウォーク 9/7（日）、東三国地域運動会運営補助・新東三国地域運動会運営補助 10/12（日）、新東三国地域・小学校合同防災訓練 11/29（土）東三国地域清掃 12/5（金）】を行った。東三国地域青少年を守る会での「健全育成標語・ポスター掲示」では2年生ポスター（金賞3名、銀賞5名）1年生標語（金賞5名）、2年生標語（金賞3名、銀賞4名）が確定し、3月16日（月）に表彰を行う予定。品格教育に関するポスター掲示も1月までに9回掲示した。それぞれの活動に対し周知を行い、生徒の参加はできた。

次年度への改善点

- ・昨年度と比較すると、95%が時間外勤務の平均時間が減少している。早い帰宅の声掛けをし合う場面も増えてきている。この傾向を次年度にも継続していきたい。
- ・ジュニアリーダーの地域の取組は部活動などで日程が合わないことも多くなっている。意欲的に参加をする生徒もいることから、次年度も引き続き周知を行っていく。